

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2014年2月15日）

この日は、先月とはうってかわって猛吹雪の中、弘前を出発しました。本日の活動の参加者は、市民参加者 11名（ボランティア講師 1名含む）、学生 9名、教員 2名の 22名でした。弘前を出発して、高速道路に乗って南下すると、吹雪はますます激しくなり、野田村まで行けるのか、かなり不安になりました。最初の休憩所の花輪サービスエリアで道路状況を確認すると、仙台市以南で通行止め区間が多く、厳しい状況での活動となりました。

花輪サービスエリアを出発して、車中では、全員の自己紹介と学生事務局が作成した活動記録の DVD を上映しました。また、今回は来年度から教員事務局に参加する栗原先生をはじめ、初参加者がいたので、李からセンターの設立経緯や活動内容などについて、説明を行いました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影



児童クラブでの学習支援

この日の活動は、一日遅れのバレンタインチョコをお届けすることと、児童クラブでの学習支援と、中学仮説集会所での茶話会を行うことになりました。また、先月に引き続き、俳句教室を開催しました。そして、先月から始めた中高生のためのカフェ、「のんちゃんのお隠れ家」を運営することにしました。

猛吹雪の中、野田村には 10 時半過ぎに到着しました。車を降りると、野田村は銀世界で、弘前に匹敵するほど雪が多く、皆の第一声が「こんなに雪が降るんだ」でした。最初に向かった児童クラブではインフルエンザと猛吹雪の影響で、参加している子供は3名のみでした。顔馴染みの子供たちは、満面の笑顔で、元気に迎えてくれました。いろいろ心配しましたが、児童クラブではいつも以上に元気な笑い声が響いていました。

中学仮説集会所では、茶話会と俳句教室が開催されました。この日は、吹雪の影響で足元が不安定で、外に出るのを控えているようで、参加者が少なくさびしいスタートとなりました。また、雪が降り続いていて、多くの方が仮設の外で雪かきに励んでいました。そこで、一部の学生と市民の皆さんは急きょ、除雪のお手伝いをさせていただきました。仮設住宅では、所どころ空き家があり、空き家の前は全く除雪ができていないため、通りぬけることができない状況でした。そこで、学生と市

民、教員事務局が一緒になって空き部屋があるところを中心に雪かきをしました。

また、2 回目の俳句教室は少ない人数でしたが、俳句の先生のお話を熱心に聴きながら、一生懸命、句を考えていました。帰りのバスの中で、池田さんが今日読まれた句を紹介してくれました。



俳句教室の様子



除雪のお手伝い



バレンタイン・チョコ

中高生向けカフェ「のんちゃんの隠れ家」はやはり猛吹雪で足元が悪く、参加者がゼロでした。ただ、午後から予定されていた京都大学の河合さんが継続して行っている書道教室の準備を一緒に手伝いながら、いろいろと情報交換ができたようです。書道教室には午後から常連の村民の方が見えて、少し交流ができました。

ただ、午後になってからも吹雪はやむ気配がなく、逆にますますひどくなりました。交通情報を確認したら、通行止め区間が午前中より多くなっていたので、帰りのことを考えて、教員事務局の判断で活動を 13 時 30 分に切り上げることにしました。野田村の皆さんも、帰りのことを心配してくれて、できるだけ早く切り上げて、無事に帰れるように考えてくださいと心配してくれました。また、「来月、またお会いしましょう」と声をかけてくれて、ありがたかったです。

名残惜しかったです。安全を第一に考え、早めに帰ることになりました。雪は降り続いていましたが、弘南バスのドライブさんとガイドさんのおかげで、無事に弘前まで帰って帰ることができました。あらためて、ドライブさんとガイドさんに感謝申し上げたいと思います。本当にご苦労様でした。

(担当:李永俊)